

パートナーとの共創により実現した建設業界と生活者の課題を解決する理想の住まい

まなづる
「真鶴の家」プロジェクト 実棟モデル公開

職人不足に対応する「パネル化住宅」に向けた高性能・高断熱のトリプルガラス樹脂窓を専用開発

YKK AP株式会社（本社：東京都千代田区、社長：堀 秀充）は、ワールドハウジングクラブ株式会社（本社：東京都中央区、共同代表：横田 有平・新沼 教之、以下：WHC）および一般社団法人LIVING TECH協会（本社：東京都渋谷区渋谷、代表理事：山下 智弘・古屋 美佐子、以下 LIVING TECH協会）と共働し、建設業界と生活者のさまざまな課題を解決する「真鶴の家」プロジェクトの実棟モデルを9月2日に公開しました。



「真鶴の家」(左) 外観 (右) 施工時の様子

「真鶴の家」プロジェクトは、各分野で専門的な知見を持つパートナーとともに理想の住宅を体現するコンセプトモデルづくりとして2020年にスタートし、建設業界や生活者の課題を解決する手法やプランを検討してまいりました。

■ 建設業界における課題 “職人不足”

建設業界では、職人不足と高齢化が進む中、窓の高性能化に伴う重量化による施工者の負担が課題となっています。YKK APでは、こうした課題を解決する工法や商品開発、人材育成に取り組んでおり、その一つとして、省施工や工期短縮に貢献するパネル住宅（※）の普及促進に向けて、パネルに最適な窓の研究・開発を進めてまいりました。本プロジェクトでは、YKK APが開発したパネル専用窓（トリプルガラス樹脂窓）と面材、断熱材を一つにしたWHCによる高断熱複合パネルユニット「未来パネル」を採用しています。この2社の技術共働による「未来パネル」は、約1週間の工期短縮を実現するとともに、室内側からのパネル施工ができるため従来のように重量化した窓を外部から取り付ける必要がなく、狭小地でも安全かつ容易な施工が可能です。また、パネル平面から出っ張りのない専用窓によりパネルの平積みを実現し、工場からのパネル搬入のコンパクト化や配送回数の削減を実現しました。



※住宅の床、壁などの構造体を規格化されたパネルとして工場生産し、施工現場で組み合わせて建築する工法による住宅。施工現場での作業が少ないため施工者の負荷が軽減され、工期短縮にも貢献する。

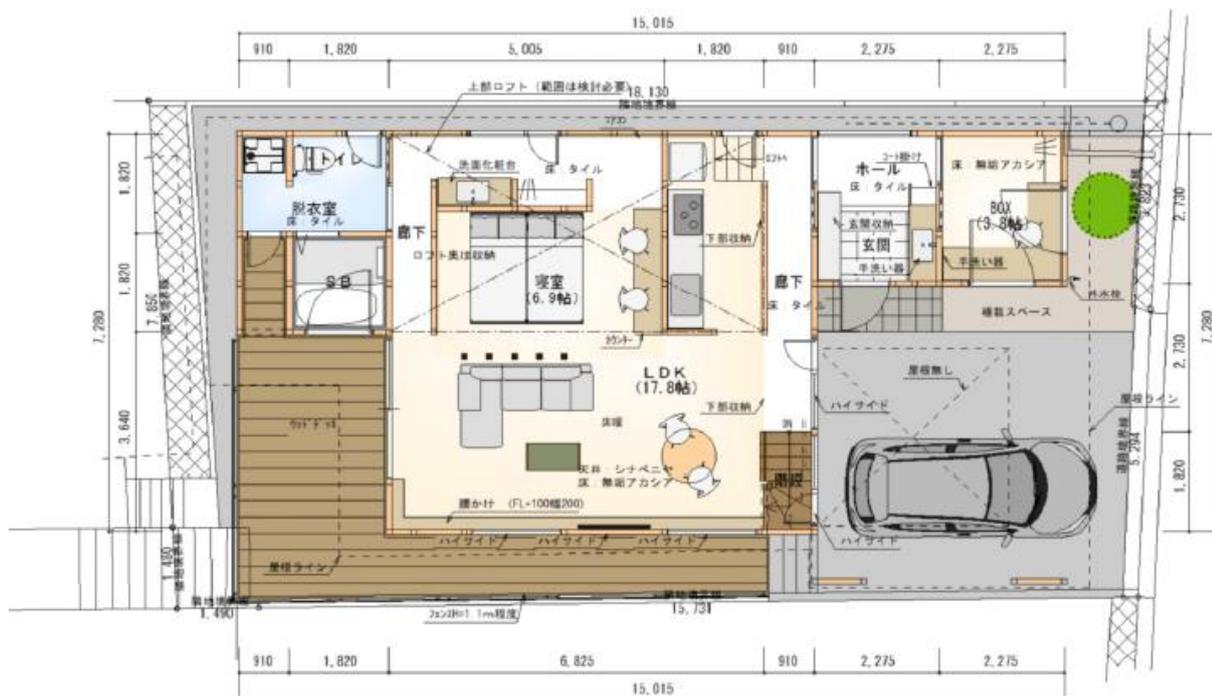
■コロナ禍から学んだ生活者の課題 “職住一体” “スマートホーム化”

コロナ禍におけるおうち時間の急増や在宅ワークの定着によりライフスタイルが変化し、住まいに対するニーズや価値観の多様化が一層進みました。「真鶴の家」のモデルプランでは、より充実した「職住一体」のために在宅ワーク空間と住まい空間を明確に分けた間取りや、コロナ禍での「衛生強化」のための玄関スペースの洗面や非接触設備の導入、より一層ニーズの高まる「スマートホーム化」のためにLIVING TECH協会と連携し、デバイスや充電器を考慮した設計などのコンセプトを取り入れています。さらに実棟モデルが所在する神奈川県真鶴町は都心へ約90分でアクセス可能な距離で、自然を感じるロケーションで住みながら働く「郊外居住」を体感することもできます。

「真鶴の家」実棟モデルは、購入希望者向けのモデルハウスとして活用されるだけでなく、工務店やビルダーなどのプロユーザーの抱える課題解決に向けた提案の場として活用します。YKK APは、複数のパートナーとの共創によりさまざまな技術やノウハウが凝縮された「真鶴の家」プロジェクトを通じて、省施工や高性能・高断熱化に貢献するパネル化住宅の普及促進を支援することで、これからも社会課題解決に貢献してまいります。

「真鶴の家」物件概要

モデルルーム所在地	神奈川県足柄下郡真鶴町
敷地面積	175㎡ (53坪)
延床面積	77.67㎡ (23.45坪)
構造	木造軸組み工法+パネル工法 平屋
建設期間	令和3 (2021) 年4月～令和3 (2021) 年8月
設計・施工	大和建设株式会社 (https://www.yamato-k.net/house.htm)



平面図



(左) ホテルライクな住まい空間 (右) 在宅ワーク空間

WHC との協業内容～職人不足解消の一躍を担う「未来パネル」工法を採用～

「真鶴の家」は、WHCの「未来パネル」を採用しています。未来パネルは、YKK APが未来窓パネル専用に開発した高性能トリプルガラス樹脂窓とパネル（面材＋断熱材）を1つにした次世代型の高断熱複合パネルユニットです。この2社の技術共働による未来パネルは、施工現場での作業の効率が大幅にアップし工期の短縮につながるなど、建設業界が抱える職人不足の課題解決に貢献します。さらに、建築現場で端材が出ないため、ゴミの量も最小限にすることができます。「未来パネル」によるパネル化住宅は、WHCにより高性能の住宅キットとして提供されます。

ワールドハウジングクラブ株式会社 (<https://www.home-i-land.jp/>)

住宅業界が抱える様々な課題を解決すべく、各分野のエキスパートが集結した集団です。耐震等級3、HEAT20 G2の高性能住宅として全てパッケージ化した“住宅キットをビルダー同士で共有できるシェアビジネスで展開し、登録店は、自社ブランドとして販売・施工が可能となる「HOME i LAND（以下：HiL）」（通称ハイル）を運営。「使う」「学ぶ」「繋がる」の循環型コンテンツをHiLというプラットフォーム上で実現しています。

LIVING TECH協会 との協業内容～スマートホームのパッケージ化とスマートデバイスの最適納まり提案～

「真鶴の家」は、LIVING TECH協会の監修により、さまざまなスマート家電や住宅設備をスマートデバイスと連携するスマートホームを実装しています。例えば、一声で複数の機器を操作、管理できるといった日々の生活を快適に便利にするスマートデバイス連携を提案・設計し、パッケージ化しています。また、建築時点でスマートホームの実装を考慮し、各機器専用のコンセントの位置や、充電が必要なスマート家電の位置や納まりを提案しています。住み始めると同時に快適で便利な生活がスタートできます。

一般社団法人LIVING TECH協会 (<https://www.ltajapan.com/>)

ミッションである「人々の暮らしを、テクノロジーで豊かにする。」の実現を目指し、住宅関連事業者やメーカー、流通・小売りに携わる企業が集い、2020年4月に設立した団体です。ミッション実現に向けて、業界を横断した企業の連携や、ユーザーとのトライアル、情報の発信を行う中で、暮らしの豊かさの実現と社会課題の解決を両立し、全ての人々が快適で生き生きと暮らせる社会を目指します。